

本 会 記 事

日本植物病理学会平成29年度第1回評議員会議事録

日 時：平成29年11月11日(土) 14:30~17:00

場 所：日本植物防疫協会ビル会議室(〒114-0015 東京都北区中里2-28-10)

出席者：

秋光和也, 青木孝之, 有江 力, 濱本 宏, 曳地康史, 廣岡 卓, 一瀬勇規, 石黒 潔, 岩井 久, 景山幸二, 川北一人, 北 宜裕, 児玉基一朗, 近藤則夫, 窪田昌春, 桑田 茂, 眞岡哲夫, 増田 税, 守川俊幸, 仲川晃生, 中島 隆, 中屋敷均, 夏秋啓子, 大島一里, 奥野哲郎, 佐野輝男, 高橋英樹, 竹下 稔, 瀧川雄一, 寺岡 徹, 土佐幸雄, 土屋健一, 津田新哉, 柘植尚志, 月星隆雄, 對馬誠也, 宇垣正志, 渡邊 健, 吉川信幸, 夏秋知英会長, 久保康之副会長, 平塚和之庶務幹事長

以上評議員42名(定員53名, 欠席者: 難波成任, 阿久津克己, 平八重一之, 根岸寛光, 大木 理, 佐藤豊三, 高橋賢司, 高松 進, 金山晋治, 荒瀬 榮, 長谷川裕)
幹事・事務局出席者: 鈴木文彦庶務副幹事長, 山内智史庶務幹事, 古谷綾子会計幹事, 染谷信孝庶務幹事, 西川尚志副会計幹事, 渡辺玲子事務局員, 水藤早紀事務局員

開会の挨拶(夏秋会長)

I. 審議事項(議事進行: 夏秋会長)

- 平成30年度功績者の推薦(奥野功績者推薦委員長)
 - 委員会より名誉会員に白石友紀氏が, 永年会員に本吉總男氏, 家城洋之氏, 宮島邦之氏, 森田昭氏, 要司氏の5名が推薦され, 承認された。
- 平成30年度論文賞の選定(川北編集委員長)
 - 委員会より論文賞受賞候補論文が選定されたことが報告され, 承認された。一次候補5編から二次投票を行い, 2編が選定されたことが説明された(筆頭著者ABC順)。
 - Kanako Inoue, Harumasa Kitaoka, Pyoyun Park, Kenichi Ikeda. Novel aspects of hydrophobins in wheat isolate of *Magnaporthe oryzae* Mpg1, but not Mhp1, is essential for adhesion and pathogenicity. *Journal of General Plant Pathology* 82(1): 18-28 (2016)
 - Kazumi Takao, Yasunori Akagi, Takashi Tsuge, Yoshiaki Harimoto, Mikihiro Yamamoto, Motoichiro Kodama. The global regulator LaeA controls biosynthesis of host-specific toxins, pathogenicity and development of *Alternaria alternata* pathotypes. *Journal of General Plant Pathology*

82(3): 121-131 (2016)

- 平成30年度学会賞, 学術奨励賞の選定(夏秋賞選考委員長)
 - 夏秋選考委員長より, 平成30年度学会賞・学術奨励賞の二次選定結果について開票結果が報告され, 学会賞に3名, 学術奨励賞に3名が選定されたことが報告され, 承認された。選定結果は以下の通り。
 - 学会賞
 - 桑田茂「植物ウイルスの病原性変異機構に関する研究」
 - 近藤則夫「アズキの土壌伝染性病害を引き起こす複数種病原の生態と病原性分化に関する研究」
 - 高松進「うどんこ病の進化および分類同定に関する研究」
 - 学術奨励賞
 - 甲把理恵「園芸作物病害の総合的防除モデルの構築に関する研究」
 - 八重樫元「宿主に永続伝搬する果樹ウイルスおよび菌類ウイルスのサイレンシング回避戦略に関する研究」
 - 宮下修平「植物RNAウイルスの複製と進化機構に関する研究」
- 平成31年度大会開催地(中島評議員)
 - 平成31年度大会をつくば国際会議場(茨城県つくば市)で開催すること, 日程は大会を平成31年3月18~20日に, 評議員会を3月17日に開催予定であることが報告され, 承認された。
 - 大会委員長をつとめる農研機構の中島隆氏が挨拶をした。
- 次期編集事務局について(夏秋)
 - 次期編集事務局が香川大学, 秋光和也評議員が委員長となることが報告され, 承認された。
 - 秋光評議員が挨拶をし, 香川大学の教員4名で事務局を運営することが報告された。
- 教育プログラムについて(大島評議員, 近藤評議員)
 - 本年度開催した第13回植物病害診断教育プログラムについて佐賀大学の大島一里評議員が開催報告を行った。佐賀大学, 宮崎大学, 佐賀県を事務局として9月11~15日に実施され, 23名(正会員14名, 学生会員2名, 非会員9名, 職業は県職員, メーカー, 農家, 学生, 年齢構成も20~60代と多岐であった)が受講した。
 - 次年度は北海道大学の近藤則夫評議員が担当であり, 北海道大学, 農研機構北農研の2会場で平成30年8月27~31日にかけて開催予定であることが報告され, 承認された。28~29日に北農研にてダニの分類, 30~31日

に北大にて病害診断教育を予定していることが報告された。講師は道内の学会関係者で対応する予定。

7. 2018年以降のJGPP出版に関するSpringerとの契約内容について（古谷会計幹事）

- 今年度で契約が終了するSpringer社とのJGPP出版の新規契約について、古谷会計幹事から説明があり、新契約は2017年12月1日からの4年間契約、知的財産項目の一部削除、出版費は旧契約の30%減の635万円、冊子体1冊単価は3000円/年、出版Royaltyにおける最低補償額240万円の項目が削除されたこと、出版部数を50部減らす予定であることが報告され、承認された。
- 石黒評議員から今後の学会誌の電子媒体と印刷物についての学会運営側の考え方について質問があり、現状維持が基本ではあるが今後検討することが返答された。
- 中島評議員から学会誌の無料アクセスと機関リポジトリの考え方について質問があり、学会規則における学会誌と出版社を通じた商業誌としての公開及び権利について、議論があり、今後の検討課題として調査、報告することが夏秋会長より提案された。

※有江評議員から農業学会では平成24年からリポジトリ対応をしていること、植物病理学会でも検討予定であったが、検討していないのが現状であることが報告された。

※曳地評議員からは高知大学を例とすると、所属員の研究成果として公表論文のabstractは機関リポジトリに登録するが、論文本体は大学としては要求していないこと、それらが文部科学省の指示に従っていることが報告された。

8. ブルーバックス出版に関して（久保副会長）

- 神戸大学の中屋敷評議員提案として、講談社ブルーバックスシリーズとして仮題「植物たちの秘められた力～病気に負けない体のしくみ」を高校～一般向として出版計画があることが紹介された。
- 上記案を日本植物病理学会編とすること、執筆者を中屋敷・久保両氏が調整すること、印税が学会に帰すること、が報告され、承認された。

9. アジア植物病理学会の開催について（夏秋会長）

- 第7回アジア植物病理学会及び日韓シンポジウムの報告があり、日本からの出席者は67名と韓国以外では最多であったこと、アジア植物病理学会の規約、Chapter 4 Article 14に基づき、AASPPの副会長を日本から早急に選出しなければならないこと、ACPP 2020の日本における開催地を決定し、翌4月にはHPを開く必要があることが報告された。

- ACPP開催にあたる2020年はIYPH 2020と一致するため、農林水産省等との協力、共催の可能性が報告された。
- アジア国際植物病理学会の旗がお披露目された。
- 曳地評議員からタイで行われたACPPの際に、日本植物病理学会では会長が1年毎に代わることから3年単位のASPP対応は困難であることをASPPに伝えていたが無視されていた可能性が報告された。また、ACPPでは開催国から招待参加者にお土産が出されること、カウンセラーミーティング等が全て開催国負担であること等の懸念が指摘された。
- ACPP準備委員会を立ち上げることが提案され、常任評議員及び国際化対応委員会を中心に早急に発足し、神戸大会で報告することが承認された。

10. 学会法人化について（夏秋会長）

- 平成31年度大会における総会で任意団体の解散と法人設立を予定して法人化検討委員会を設置するスケジュールが報告された。
- 社員を代議員と考え、その代表として現在の常任評議員を理事とすること、理事の互選で代表理事が選出されることが紹介された。
- 検討委員会を来年3月の総会で承認を受けて発足すること、メンバーは常任評議員をあてることが提案され、承認された。
- 岩井評議員から部会のあり方について質問があり、現状の部会における年度繰越金等の取り扱いが変わることが夏秋会長から説明された。

II. 報告事項

1. 平成30年度副会長、会計監査選挙結果の報告（有江選挙管理委員長）

- 11月9日に選挙管理委員会立ち会いの下に開票され、平成30年度副会長に柘植尚志氏が選出されたことが報告された。
- 平成30・31年度会計監査選挙について開票が行われ、根岸寛光氏、濱本宏氏、夏秋啓子氏が選出されたことが報告された。
- 平成30年度副会長に選出された柘植評議員から挨拶があった。

2. 平成30～31年度評議員選挙結果の報告（有江選挙管理委員長）

- 11月9日に選挙管理委員会立ち会いの下に開票され、各地区の評議員が決定したことが報告された。評議員資料の次点者名を伏して全会員宛に公開することが報告された。

3. 日本農学進歩賞の受賞者（平塚庶務幹事長）

- 本学会が推薦した石橋和大氏の受賞が決定したことが報

- 告された。
- 授賞式、受賞講演及び祝賀会が11月24日に東京大学農学部弥生講堂で予定されていること、出席可能な評議員については出席を要請した。
4. 平成29年度大会・部会・研究会・談話会報告（平塚庶務幹事長・吉川評議員）
- 大会委員長の岩手大学吉川評議員から盛岡大会について、参加者が805名、懇親会参加者468名、大会運営費が246,000円の黒字であったことが報告され、残金については既に学会事務局に送金済であることが報告された。
5. 平成30年度大会案内（土佐大会委員長）
- 大会委員長の神戸大学土佐評議員から平成30年3月25～27日に神戸国際会議場で開催予定であること、日植病報4号に開催案内を掲載予定であること、平成29年12月1日から大会参加登録が開始されること、発表申し込みが平成30年1月15日、参加〆切が2月28日になることが報告された。
 - 評議会は平成30年3月24日に同会場で予定されていることが報告された。
6. 編集委員会報告（川北編集委員長）
- 学会誌100周年記念として論文解説等を実施しており、該当者には個別に交渉していることが報告された。
 - 和文誌への論文投稿受付数が減っており、原因が分からないことが報告された。
 - JGPPのIFが1.2であるが、学会100周年記念における総説の引用が反映されている可能性が報告された。
 - 曳地評議員より、以前に各研究会・談話会から総説を投稿してもらった話があり、反映されているかの質問があり、感染生理談話会からは2編の投稿があったことが返答された。
7. JGPPのPubMed収録申請について（古谷会計幹事）
- JGPPのIF向上のため、PubMed申請を検討しており、必要な要件についてはほぼ満たしていることが報告された。論文中でのConflict記載が対応され次第、4号分の雑誌を提出することで要件を満たすことが報告された。
8. 日本学術会議植物保護科学連合報告（西川副会計幹事）
- 分科会合同会議が9月27日に行われ、平塚幹事長及び西川副会計幹事が出席したことが報告された。
 - 12月2日にシンポジウムが予定されており、本学会からは岩手大学の吉川先生が講演予定であることが報告された。
 - 連携携会員の第25期推薦について報告された。
- ※会員の後任について会員毎に引き継がれること、植物病理学会は推薦母体から外れていることが確認された。
9. 2017年度病名目録の発行（山内庶務幹事）
- 2017年度病名目録が病名委員長の窪田評議員から提出され、HPに掲載済であることが報告された。
10. 男女共同参画学協会連絡会の活動報告（夏秋男女共同参画学協会担当評議員）
- 本会が2002年に発足、約90の学協会で構成されていることが紹介された。
 - 内閣府の目標が学協会などにおける構成員の女性比率を現在の15.3%から2020年に30%としていることが報告された。
 - 植物病理学会は本会にオブザーバー参加であること、植物病理学会自体としては2017年度会員における女性比率が学生会員46%、一般会員17%であること、評議員では現状は1名、次期は2名であり、各委員会には女性役員がいないことが報告された。
11. 技術士対応委員会・五学会技術士育成推進委員会報告（濱本技術士対応委員）
- 本年度は合格者10名うち学会員7名であったことが報告された（前年は合格者9名うち学会員2名）。
 - 大会においてランチョンセミナーを開催し、参加者30名であったこと、通年では50名の参加者があったことが報告された。
 - 五学会技術士育成推進委員会は1月に開催し、植物病理学会内における技術士対応委員会は9月に実施したことが報告された。
 - 平成30年3月26日にランチョンセミナーを予定していることが報告された。
 - JABEEにおける技術者教育推進委員会が農学教育推進委員会に名称変更することが報告された。
12. 名誉会員 梶原敏宏元学会長の逝去（平塚庶務幹事長）
- 名誉会員 梶原敏宏元学会長が逝去され、学会誌に掲載する追悼文を松山先生に依頼済であることが報告された。
- III. その他
- (1) 国際化委員会より（夏秋国際化対応委員長）
- オーストラリアン学生交流事業において、毎年2名、1名あたり15万円の補助金を出していることについて、2016年がオーストラリアから、2017年が日本から、の順番であったが、2016年にオーストラリアからの派遣がなく、2017年に派遣があったこと。11～12月に予定されているオーストラリアの評議員会で承諾（ブラマー会長は承諾済）を得た上で二国間の派遣年順番をずらし、2017年を日本受け入れ年、2018年を派遣年とすること、本件は幹事会で承認済であることが報告された。
 - 学会の会計処理と学生の渡航時期において、1月に募集をかけ、4～12月に派遣するように変更した方が本事業に適していることが提案され、承認された。